

「事業所職員向け」 児童発達支援自己評価表

公表： 2025年7月1日

スタッフ 14 名回答

事業所名： さんばみち

		チェック項目	はい	いいえ	どちら ともい えない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえ た改善内容又は、改善目標
環境・ 体制整備	①	①利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	13	0	1	子どもたちの状況に合わせて、空間を区切ったり、時間を調整したりしている。 部屋の空間の広さを、子どもに配慮している。子どもがのびのびと体を動かせる場所や、砂場など、遊べる場所がある。	部屋の大きさに合わせて、家具や物の位置を配置しています。子ども達の安全を第一に考えていきます。 子ども達の遊びに合わせて、中庭の空間、物などを工夫してまいります。
	②	②職員の配置数は適切であるか。	12	0	2	子どもの人数と個々の表れに対し必要に応じて配置されている。 子どもの気持ちに寄り添えるよう、必要に応じてスタッフがすぐ対応できるよう困った時に押せるチャイムが設定されている。 困ったらボタンを押すを徹底します。日よって大変とを感じる場面がある。声をかけあったり、応援を呼んで協力している。 困ったら空いてるスタッフを呼んでサポートしてもらっています 子どもの人数や特性に応じて配置されている	配置数は適切であり、多角的な視点で支援ができるように、多職種の職員を配置しています。
	③	③生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	10	0	4	絵カードや写真などの視覚支援を取り入れている。 余分なものはなくし、エスケープができない柵の設定、鍵の設置を行っている。活動が視覚的に分かりやすいように絵カードを全部屋で提示をしている。 子ども一人ひとりにあった生活空間を目指しているが、変えられないこともあるため、難しさはある。 クールダウンの場所があると良いと感じます。 危ないところなどはすぐ情報共有や対策していると思います 視覚で分かりやすく提示されている	子ども達の様子にあわせて、絵カードや写真を使用したり、部屋の行動を変えたりしています。 怪我をしたり、危険だったりした場所には把握をして、すぐに修繕したり、形を変えたりしながら、安全面に配慮しています。
	④	④生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	4	床のささくで、怪我をする子がいるため、床の修繕方法を検討中。 起きた事柄に対して 床の素材の張り替えなど迅速に対応されている。 児童が来る前に危険がないか確認し、毎日使用箇所の掃除をおこなっている。 床のとげはやすりがけをしたり子どもたちに上靴を履くよう声をかけていく。 雨の日などは走り回って危ないことも多くなる	昨年度末に床の修繕を行いました。
業務改善	⑤	⑤業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13	0	1	目標を設定した後、各自で目標を保管し、管理者と面談を行い振り返りを行っている。 月に1回、バイズがあり、そこでいろいろなことを話している。振り返りでは困りごとを話し、朝の申し送りの場でパート職員とも共有している。 形式なども その都度変えられている	話し合い、振り返りなどの時間をとるように努めています。また、業務に関しては、月に一度振り返り、改善案をみんなで検討しています。
	⑥	⑥保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	13	0	1		保護者の意向を職員間で共有し、改善、検討しています。
	⑦	⑦事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	11	0	3		
	⑧	⑧第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	0	4	おそらく事業所として実施されていると思いますが個人的に把握できておりません。	
	⑨	⑨職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	14	0	0	月に2回の研修だけでなく、朝や帰りの短時間でできるものを工夫して行っている。 ただ受けるだけでなく、その後話し合う場を作る事で深められている。 事業所内研修や地域で開催されている研修への参加があります。 子どもの理解を深める研修を行っている。知るだけでなく、話し合い、現状と照らし合わせながら考えられている。 毎月2回定期的にやっています こちらの希望や要望なども 聞いていただいている	じっくりと取り組める研修を月2回、短時間での研修は朝や夕方の時間にとっています。 年度末もしくは年度当初、職員の困り感、研修したい内容などを募り、意欲的に取り組めるように工夫をしています。
	⑩	⑩アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13	0	1	児童の様子や保護者が困っていることをきき、助言をしたり、医療と連携をとったりしながら、子どもや保護者のニーズを把握しながら作成している。 そうなんだと思います	子ども達の様子をお伝えしながら、ご家庭での様子も教えていただいています。

適切な支援の提供	⑪	⑪子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	14	0	0	発達検査や生育歴などです	
	⑫	⑫児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家庭支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	0	0	ご家庭で困っている時には支援があることをお伝えしている。	
	⑬	⑬児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	14	0	0	職員全体で、個別支援計画を共有している。 作成した支援計画をスタッフ同士で共有している。 毎朝、情報共有している	どの職員もさんぽみちを利用している児の様子や状況がわかるように、全体で共有をしています。また、わからない時には確認できるようにしています。
	⑭	⑭活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	1	子どもの姿から興味持てそうな内容を探って行っている。 振り返りや話し合いを毎日行い、活動プログラムが適切であるか皆で考え、お互い案を出し合っている。 子どもの様子を見て、同じ部屋のスタッフで相談してプログラムを決めている。 振り返りなどで話し合っています 子どもの表れから 次に向けて話し合っている	グループ内の職員だけでなく、他グループの職員にも意見を聞ける雰囲気や時間を作っています。
	⑮	⑮活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	4	お子さんたちが楽しめる活動を色々考えていきたいです。 子どもの様子や成長、必要な支援を考え随時変えている。 日々の子どもの様子からこの活動が必要なのか？やり方を変えてみるのか？等を見極めて組み立てていきたい。 安心できる活動の必要さもあるため、慣れた活動も大切にしている。 その日の子どもに合わせて少しずつかえてたなは	日々だけでなく、数週間、数か月で意識して、子ども達の様子を振り返り、活動プログラムについて検討しています。
	⑯	⑯子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成しているか。	14	0	0	外遊びで集団で参加しやすい追いかけっこなどの遊びを行ったり、他グループと合同で遊ぶなど集団の数を変えている。室内では工作や自由あそびで子どもの実態に合わせて活動や支援内容を変えている。	
	⑰	⑰支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	13	0	1	ホワイトボードで見えるようにして、みんなで相談している。 予想される表れに対して スタッフ同士がどう関わるか話している。 へいが押せない。毎回スタッフ同士で、前回の子供の様子や医療からの連絡、保護の情報の共有を行い、支援内容をスタッフ同士で考え、役割を決め見通しを持って支援を行っている。 じゅんひしながらはなしています 他のグループの動きなども確認できている	毎朝の申し送りはホワイトボードを活用し、見て確認できるようにしています。また、バス添乗や遅刻などで申し送りに参加できないスタッフには写真にとり、内容を共有できるようにしています。
	⑱	⑱支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	0	0	その日にいないスタッフとも 後日共有できるよう 話す事を大切にしている。 支援中撮っている動画を確認し、子供かどのような気持ちだったのか、支援の仕方を振り返り、意見を出し合い次の支援につなげている。 ふりかえりでかくにんしています ビデオをみて 客観的に確認している	
	⑲	⑲日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	0	支援に関わったスタッフは必ず記録を入力し、支援内容や子供の様子を確認し、支援の検証や改善につなげている。	必ず記録をとり、いつでも確認できるようにしています。
	⑳	㉔定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	14	0	0	定期的にモニタリングを行い、ご家庭や園の様子、さんぽみちでの様子を合わせて出し合い、子供実態を保護者と共有し、支援計画の見直しを丁寧にやっている。	
関係機関や保護者との	㉑	㉑障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	13	0	1		児発管や担当者、保護者など、本人の様子がわかる人が参加できるようにしています。
	㉒	㉒母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	13	0	1		子育て支援広場や幼稚園などの関係機関と連携をとっています。
	㉓	㉓（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	11	1	2	医療と密に連絡を取り合い、連携して支援に当たっている。	
	㉔	㉔（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	10	0	4	医療と連携を密にとり、医師、心理士と共有しながら支援に当たっている。	
	㉕	㉕移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	0		令和6年度は移行支援を利用した児はいませんでした。
	㉖	㉖移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	0	サポートかけはしシートの利用、また、保護者の意向に合わせて支援を考えている。	小学校や特別支援学校とはかけはしシートで情報共有を行っている。
	㉗	㉗他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	13	0	1		他児童発達支援センターや事業所などと研修や連絡会を行っている。

連携	28	28保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	13	0	1	今年度は地域の幼稚園へ出かける機会を設けた。 近隣の幼稚園と一緒に遊ぶ機会をもうけ、中に混じって一緒に遊んでいる。 ようちえんへいきました 地域の幼稚園との交流会があった	
	29	29（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	12	0	2		自立支援協議会に参加している。
	30	30日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	1	送迎時の声掛け、連絡帳、必要であれば、電話連絡等をしている。 支援で気づいたことや、課題など保護者に丁寧に伝えている。	送迎時や連絡帳などで、保護者と連絡をとるように努めている。
	31	31保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか。	13	0	1		年に2回、ペアトレを行っている。
保護者への説明責任等	32	32運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	0	0		年度当初は必ず確認している。
	33	33児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14	0	0		
	34	34定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	14	0	0	相談しやすい雰囲気作りを心がけ、毎回保護者に話しかけ、保護者の悩みを聞いている。保護者の悩みに対し、助言をしたり、スタッフ同士で協力して支援に当たっている。	スタッフからお話するように心がけ、いつでも相談しやすい関係づくりに努めています。
	35	35父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	13	0	1	保護者が参加できる会を定期的に開催し、子供の様子を動画や写真をつかい、話しながら伝えている。保護者同士悩んでいることが共有できる話し合いの時間も設けており、スタッフが助言したり、支援につなげている。	定期的に親の会を行っています。食事や就学についてなど、時期や状況に合わせて、テーマを決めることもあります。
	36	36子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	1	保護者からの相談に対して、スタッフと連携をとりつつ迅速かつ、適切に対応できるよう連携をとっている。	
	37	37定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14	0	0	月に一回おたよりを配って、子供の様子や行事や必要事項の連絡をしている。さくら連絡を有効活用し、迅速な情報発信を行っている。	
	38	38個人情報の取り扱いに十分注意しているか。	14	0	0		第三者のいる場での話し合いはしないように気を付け、書類の管理は鍵のついた棚で保管している。
	39	39障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	0		絵カードや写真、メモなど、相手がわかりやすい方法で、お伝えするようにしています。
	40	40事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	0	1	今年度は10周年祭を行い、盛況だった。 10周年を開催しました。 お祭りを開催し、地域の方との交流の場を設けている。	
非常時等の対応	41	41緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	0	0	毎年 研修を受ける機会があり、再認識する場にもつながっている。 取り組んでみての反省なども出されている	毎年の研修、毎月の訓練を行っている。 （第三者委員）熱中症対策をしっかりと行ってください。
	42	42非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0	0	いろいろな想定のもと 行っている。 備蓄食料の確認、定期的な避難訓練を行い、保護者にも協力してもらい、引き渡し訓練も実施している。	
	43	43事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0	0	健康カードに予防接種の有無を保護者に記入してもらっている。服薬は事前に服薬依頼書を保護者に書いてもらっている。てんかんやアレルギーなどの情報をスタッフ同士で共有し、名簿に記入。エビペンの常備、練習を行っている。 誰もが見やすくわかりやすく提示してある	子どもの状況をスタッフ間で共有し、わかりやすく表にして、いつでも確認できるようにしています。
	44	44食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	0	1		
	45	45ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	14	0	0	毎週確認している。 細かくヒヤリハットをスタッフで協力して入力し、どんな場合に事故が起きやすいかを予測できるよう入力が続いている。	毎週金曜日に確認し、翌週月曜日に周知しています。
	46	46虐待を防止するため、職員を研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	0		毎年、虐待研修を行っています。
	47	47どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	0	0	スタッフが保護者に説明を行い、同意書の記入をしてもらっている。	